

温泉の危険性

温泉水には、二酸化炭素、硫化水素、メタン、窒素などのガスが含まれています。温泉水が地面から噴出すると、ガスと水が分離し、水が泡立ちます。大噴の泡立ちは、水と二酸化炭素などのガスの分離によるものです。

火山ガスが溶けこんだ地熱水が地下で沸騰すると、蒸気が発生します。その蒸気は二酸化炭素と硫化水素の気体を伴って、噴気孔と呼ばれる地面の穴から噴出します。硫化水素は非常に有毒なガスで、噴気孔周辺の地域では時折中毒事故が発生します。

低濃度であっても、硫化水素は「腐った卵」の臭いがします。しかし、臭気が非常に強い場合は、硫化水素の濃度が危険なほど高くなっていることを示しています。さらに濃度が高まると、実は臭気を感じとることがより難しくなります。ですから、異常に強い臭気を感じたら、その時点ですぐにその場所から離れてください。